

グルジア政治・経済 主な出来事

【6月3日～6月9日】2013年

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年6月11日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼グンバ・アブハジア「文化大臣」が南オセチアを訪問(5日)

・ココエフ「南オセチア「文化大臣」と会談し、アブハジアと南オセチアの「文化省」の協力文書に署名。

【アブハジア】

▼アブハジア「議会」の代表団が露連邦議会を訪問(3日)

・連邦院との協力委員会で経済政策、社会問題などについて協議。2014年までの協力委員会の作業計画に署名。

▼マックゴールドリック国連開発計画(UNDP)調整官がアブハジアを訪問(5日)

・アンクワブ「大統領」と会談。「大統領」は「国際機関との関係のフォーマットは人道支援から経済協力に変わらねばならない」と述べた。「マ」調整官はガリ地区の治安状況が改善していると評価。

▼ブトバ「中南米諸国協力特別代表」がベネズエラ、キューバ訪問から帰国(5日)

【南オセチア】

▼スリュニャエフ露地域開発大臣とヌルガリエフ露連邦安全保障会議副議長が南オセチアを訪問(4日)

・ティビロフ「大統領」と会談。南オセチアのインフラ建設の状況などを視察。

▼露保健相の代表団が南オセチアを訪問(5日)

・南オセチア内の医療施設を視察。

2. 外政

▼アバトゥライNATO事務総長コーカサス・中央アジア担当特別代表がグルジアを訪問(3日)

・3日、サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長らとグルジアのNATO加盟などの問題について会談。

・3日、国際セミナー「NATO統合プロセスについての国民意識」がトビリシで開催された。グルジアと同様にNATO加盟を目指すボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロ、マケドニアの代表者が参加。

▼アフガニスタン、カブールで活動していたグルジア軍小隊が米軍指揮下に(3日)

・これまで仏軍指揮下にあった約50名の小隊が、仏軍部隊の撤退に伴い、米軍指揮下に移動。

▼南コーカサス会議「流域の管理と持続可能性」(3日

ー4日)

・グルジア環境保護省、USAID コーカサス、フロリダ国際大学の共催で、トビリシで行なわれた。アゼルバイジャンとアルメニアの環境保護省の代表者も参加。

▼アラサニア国防大臣がNATO事務局を訪問(4日ー5日)

・5日、NATOグルジア委員会会合に出席し、NATO各国の国防大臣と会談。ラスムセン事務総長は「私はグルジアがNATOの一員になる未来を期待している」と述べた。

・5日、NATO非加盟国・ISAF貢献国とのNATO国防大臣会議に出席。

・ラスムセン事務総長は記者会見でグルジアをNATOの「信頼し合うパートナー」と呼び、グルジア国内で進められている諸改革を評価。

▼欧州議会の議員7人がトビリシを訪問(3日ー4日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、ガリバシヴィリ内務大臣、ソルキアニ法務大臣、「統一国民運動」代表、市民グループらと会談。

・4日、リセク議員(ポーランド)は現在審理前勾留下のメラビシヴィリ前首相と面会。テレビや親族との連絡手段を提供するよう法務大臣に要請。

・5日、記者会見で、ロウチュク議員(スロヴァキア)は「2013年11月のヴィリニウスサミットにおいて、グルジアがEUとの連合協定・自由貿易に向けた協議を始める現実的な可能性がある」と述べた。

▼パンジキゼ外務大臣が訪米(3日ー4日)

・ニューヨークで各国の代表団と面会し、アブハジア・南オセチアの国内避難民についての国連総会決議に対する支持を要請。国連総会決議の採決は6月13日に予定されている。

・5日、潘基文国連事務総長とグルジア・ロシア関係の問題の解決に向けた国連の役割などについて会談。

▼アバシゼ対露関係特別代表とカラーシン露外務次官が会談(5日)

・昨年12月以降、3回目の会談をブラハで行なった。通商、文化交流などにおける進展を評価。

・アバシゼ特別代表は南オセチア行政境界線上のフェンスの建設の問題を取り上げたが、ジュネーヴ会合で議論されるべき問題は会談で扱わないことになっているため、実質的には議論されなかった。

・会談後、カラーシン外務次官は露メディアに対し「(グルジア政府の許可なくアブハジア・南オセチア地域に入ること違法とする)『被占領地域に関する法律』は

撤廃されるべきである」と述べた。

▼国連大使、NATO大使が指名される(5日)

・国連大使に指名されたカハ・イムナゼ氏は、シェワルナゼ元大統領の報道官を務めていた。

・NATO 大使に指名されたレヴァン・ドリゼ氏は昨年 10 月より国防次官。国会のヴィクトル・ドリゼ欧州統合委員会委員長の弟。

▼アフガニスタンで起きた自爆テロでグルジア人兵士 7人が死亡(6日)

・ヘルマンド州の基地で起こった自動車爆弾を使った自爆テロにより 7 名が死亡。負傷者 9 名。2009 年にグルジア部隊が派遣されて以来、一度に出た犠牲者数として最大。これまでの死亡者数は累計 29 人。

・サーカシヴィリ大統領は翌 7 日を服喪日とすると発表。

・7 日、アラサニア国防大臣はブリュッセル滞在を切り上げて現地を訪問。9 日に 7 名の遺体とともに帰国。同日、サメバ大聖堂で公葬が営まれた。

▼イヴァニシヴィリ首相とケリー米務長官が電話会談(7日)

・ケリー米務長官は ISAF へのグルジアの貢献に感謝するとともに、アフガニスタンで死亡したグルジア人兵士への哀悼の意を表明。

・7 日にはアラサニア国防大臣とヘーゲル米国防長官も電話会談を行なった。

▼ラトビア議会代表団がグルジアを訪問(8日―9日)

3. 内政

▼サーカシヴィリ大統領が国家安全保障会議を招集(5日)

・昨年 10 月の議会選挙後初の招集。

・イヴァニシヴィリ首相はスケジュールの都合を理由に欠席。外遊中のアラサニア国防大臣とバンジキゼ外務大臣も欠席。出席者は大統領、国会議長、副議長、内務大臣、財務大臣、再統合問題担当国務大臣、国防次官、外務次官、安全保障会議書記および 4 人の副書記、国会野党リーダー、トビリシ市長、大統領府事務局長。

・会議の冒頭、サーカシヴィリ大統領は会議招集の理由として、南オセチア行政境界線付近における最近の「ロシアの挑発」および占領地域を国際的に承認させようとするロシアの試みを挙げた。

・与党連合から批判を受けていた最近の外遊について大統領が説明。

▼ディミトリ・コパリアニ氏がクタイシ市の新市長に決定(5日)

・クタイシ生まれ。43 歳。過去 20 年間米国在住。情報技術の博士号を持つ。夫人は米国籍。

▼「タリバーンがアフガニスタンに駐留するグルジア人兵士に対する聖戦を宣言した」とする映像が YouTube に投稿される(6日)

・映像は「グルジア国内でも復讐を行なう」として、サーカシヴィリ大統領を脅迫している。

・映像がグルジア国内から投稿されたことが明らかになり、偽作の疑いが強いとして捜査が進められている。

▼判事協議会で司法最高審議会の審議員が選出される(9日)

・裁判官の審議員の定数は 9。このうち、クブラシヴィリ最高裁判所長官と解任されない現職 1 人を除く 7 人を投票により決定。2 人が再選。

・投票日に先立ち、ツルキアニ法務大臣は「ク」最高裁判所長官に対し「特定の候補者が当選するように裁判官たちに圧力をかけている」と非難していた。

・投票後、「ツ」法務大臣は「投票は自由に行なわれた」としながらも「裁判官たちは「不可解な」決定をした」とコメント。

・裁判官ではない残りの審議員 6 人は、弁護士協会などが指名する候補者のなかから国会が数日中に選出する。

4. 経済

▼5月の年間インフレ率はマイナス0.1%(3日)

・月間では 0.7%。過去 16 カ月下落を続けていた食糧品・非アルコール飲料の価格が 1.4% 上昇。燃料・潤滑油の価格が 11% 下落。医療費は 3.7% 上昇。

▼グルジア・ポーランド政府が観光分野での協力についての覚書に署名(4日)

・2012 年、ポーランドからの観光客が前年比 60% 増。

▼フィッチ社が今年のグルジアの経済成長率を 3%と予測(5日)

・欧州復興開発銀行 (EBRD) は 3%、スタンダード&プアーズは 3.5%、グルジア政府は 6% と予測している。

▼EBRDが来年のグルジアの経済成長率を 5%と予測(5日)

・2013 年後半からの経済成長の回復を予測。

▼世界銀行が幹線道路建設のためにグルジアに 7500 万ドルを融資(6日)

▼5月にグルジアの対外債務が 17 百万ドル減少(7日)

・財務省が発表。5 月末の時点での対外債務は約 4,207 百万ドル。債権者は世界銀行・国際開発局 (1,271 百万ドル)、国際開発銀行 (358 百万ドル)、国際通貨基金 (354 百万ドル) など。国別ではドイツ (253 百万ドル)、ロシア (105 百万ドル)、日本 (92 百万ドル)。

▼第 6 回国際ワイン・アルコール飲料エキシビションがトビリシで開催される(7日―9日)

・60 以上の企業が参加。ロシアからもソムリエ・報道関係者らが参加。